



## 2019 年全日本スーパーフォーミュラ選手権 (SUPER FORMULA 2019) 第 1 戦: 鈴鹿サーキット (三重県鈴鹿市) レース報告書

予選: 4 月 20 日 (土)

天候	晴れ	
観客動員数	23,000 人	
成績	アレックス・パロウ 選手 (#64):	2 位
	牧野 任祐 選手 (#65):	1 位

決勝: 4 月 21 日 (日)

天候	晴れ	
観客動員数	35,000 人	
成績	アレックス・パロウ 選手 (#64):	リタイア
	牧野 任祐 選手 (#65):	リタイア

### <予選レポート>

開幕を迎えた SUPER FORMULA の 2019 シーズンは、モータースポーツの聖地 鈴鹿サーキットで土曜に公式予選、日曜に決勝レースが行われます。

今シーズンの TCS NAKAJIMA RACING はドライバーを一新し、スペイン人のアレックス・パロウ (Alex Palou) 選手 (64 号車)、牧野任祐選手 (65 号車) の 2 人のルーキーとともにシーズンを戦います。

公式予選は絶好の天候のもと 15 時 45 分に Q1\* がスタートします。今シーズンも公式予選はノックアウト方式で行われ、Q1 では上位 12 台 (2018 年より 2 台減) が Q2 に進出、Q2 では上位 8 台が Q3 に進出します。

TCS NAKAJIMA RACING の 2 台は Q1 開始のタイミングでコースインし、アタックに向けて準備を進めていきます。開始から 5 分が経過した頃にクラッシュが発生し、赤旗が掲出、中断されます。セッション再開後、またしてもクラッシュが発生し、2 度目の赤旗が掲示され、再び予選が中断。クラッシュした車両の回収後、いよいよアタックを進めていきたいところでしたが、残り 5 分となった頃、さらに 2 台が絡むアクシデントが発生、3 度目の赤旗が掲出されます。残り時間 5 分の時点でセッションが再開され、残った全車が懸命のアタックを繰り広げた結果、パロウ選手がトップタイム、牧野選手が 2 番手タイムをマークし、Q2 進出を果たします。

大波乱となった Q1 とは打って変わって Q2 はスムーズに 7 分間経過し、ここでもパロウ選手がトップタイム、牧野選手が 2 番手タイムをマークし、Q3 へ臨みます。

いよいよ開幕戦のポールシッターが決定する緊迫の Q3。2 台は見事に Q2 のタイムをさらに上回るアタックを見せ、牧野選手は 1 分 36 秒 060 でポールポジションが確定、チームにとっては 9 年ぶりのポールポジション獲得となりました。さらにパロウ選手も牧野選手に次ぐ 1 分 36 秒 089 で 2 番手タイムをマーク、TCS NAKAJIMA RACING の 2 台がフロントローを独占する結果となりました。

\*Q1: Qualifying Session - Round 1 (公式予選 第 1 ラウンド)。

SUPER FORMULA の予選(クオリファイイングセッション)では、3 回(Q1、Q2、Q3)のラウンドに分けて行われるノックアウト方式が採用されています。各ラウンドの制限時間でラップタイムが上位から一定の順位に入らなかった選手はノックアウト(脱落)し、ラップタイムに準じて決勝レースのグリッドが確定します。一方、勝ち残った選手は次のラウンドに進出します。Q3 ラウンドまで進出した選手にノックアウトはなく、最速ラップタイムを記録したドライバーがポールポジションを獲得し、以降、ラップタイムに準じて上位グリッドが確定します。

## <コメント>

中嶋 悟 総監督:

「嬉しいのひとつことです。ルーキーの2人がこのようなポジションをとってくれてビックリしているし、嬉しいし、何年も前のロイックと小暮を思い出すような感じです。明日は、緊張…です」

アレックス・パロウ 選手:

*“We struggled a little in the morning practice, but the car was amazing in the qualifying. We were really good for 1 lap in Q1, Q2 was also fantastic, and then Q3 was really good with the perfect car. In Q3, I pushed a bit too much and made a couple of small mistakes, which cost me a pole position. Tomorrow is a new day and we have to keep working on the race because the race is completely different, but hopefully we can achieve the same result tomorrow, but opposite.”*

「朝のフリー走行ではあまり調子がよくなかったのですが、予選ではマシンが素晴らしかった。Q1の1ラップがとてもよくて、Q2も順調で、Q3はマシンが完璧で素晴らしかった。Q3では少しプッシュしすぎて、いくつか小さなミスをしてしまい、結果としてポールポジションは逃してしまいました。しかし明日は明日ですし、予選とレースは全く別物なのでレースに向けてしっかり取り組まねばなりません。願わくば、明日も今日と同様によい結果を出したいと思っています。(牧野選手と)順序は逆転して、ですが」

牧野 任祐 選手:

「Q1では少し焦りましたが、ソフトタイヤの感触がよく、普通にアタックできて、タイムも出せて、カギになると思っていたQ1を通過できたことは大きかったと思います。明日は初めてのレースで未知の部分も多いですが、精一杯頑張っってよい結果が残せたらいいなと思っています」

## <決勝レポート>

決勝日は曇り空から徐々に晴れ間が見える天候で、「Enjoy Honda」の併催もあり、朝から多くの親子連れやモータースポーツファンが詰めかけました。大勢の観客が見守る中、TCS NAKAJIMA RACINGの2台は揃ってソフトタイヤを装着し、14時にレースのスタートを切ります。

牧野はスタートをうまく決めてトップを守りましたが、パロウ選手の前に1台が入るかたちとなり、順位は3番手に後退します。しかし、2周目に突入した直後、パロウ選手はそのマシンをパスし2番手を取り戻ります。

TCS NAKAJIMA RACINGの2台がトップ争いを展開していくが、パロウ選手にスタート手順違反によるドライブスルーペナルティが課されてしまいます。パロウ選手は8周目にペナルティを消化し、ポジションを落とすこととなりますが、ハイペースで周回を続けていきます。

その後、コース上ではアクシデントが多発し、2回目のセーフティーカーランの解除後、パロウ選手は前走するマシンにオーバーテイクを仕掛けていきましたが、直後にマシントラブルが発生しスローダウン、ほどなくコースサイドにマシンが停止しレースを終えました。

一方、牧野選手は、1回目のセーフティーカー導入のタイミングでピットインを行い、ミディアムタイヤに換装し、コースに戻ります。このセーフティーカーが解除されたあと、後続のマシンからオーバーテイクを喫し、4番手に後退します。

牧野選手は残り30数周をミディアムタイヤで完走する作戦をとり、前走する3台はそれぞれソフトタイヤでの走行が続く中、しぶとく前に食らいついていきますが、27周目に突入したところで後続のマシンとバトルになります。牧野選手はポジションを死守すべくプッシュしましたが、マシントラブルが発生しコースアウト、レースを終えることになりました。

2人のルーキーにとって苦いデビュー戦となりましたが、予選での速さには目を見張るものがあり、次戦に繋がるシーズンスタートとなりました。

## <コメント>

中嶋 悟 総監督:

「チームのミスや残念なトラブルで2台ともにリタイヤしてしまいました。ドライバーたちが素晴らしいレースをしてくれたのに、迷惑をかけてしまい、本当に申し訳ないことをしました。ただ、速さをしっかりと見せてくれているので、第2戦に向けて準備を整えて、いいレースをお見せできるようにしたいです。たくさんのご声援をありがとうございました。次戦もよろしくお祈りします」

アレックス・パロウ 選手:

*"It was a bit disappointing race. We had a really strong pace from the beginning and I was catching Makino and ready to attack, then I was told I had a drive-through. I'm rookie and have no high pressure, and I still had a really good pace and scored the fastest lap. Without any problems I could have won this race. I'm looking forward to the next race."*

「少し残念なレースでした。初めからよいペースで牧野選手に追走し、ちょうどアタックを仕掛けようとした時にドライブスルーを課されたと聞きました。私はルーキーでほとんどプレッシャーも感じず、とてもよいペースでファステストラップも記録できました。マシンに問題がなければレースに勝っていたと思います。次のレースを楽しみにしています」

牧野 任祐 選手:

「レースの展開は自分達の望んでいた展開ではなく、セーフティーカーが早く入り、ミディアムタイヤに換えなければならなくなりましたが、そういった状況でも最後まで走り抜ける感触がありました。しかし、結果的にはこんな形になり、残念です。今回良かったところ、悪かったところを整理して、また良い結果が出せるよう、精一杯頑張ります」



※次戦(第2戦)は5月18日～19日にオートポリス(大分県日田市)で行われます。

以上